



言語障害児・発達障害児（就学前・就学後）の コミュニケーション能力の研究

保健福祉学部 コミュニケーション障害学科
講師 堀江 真由美（ほりえ まゆみ）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3502号室
Tel 0848-60-1134
E-mail horie@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 小児コミュニケーション障害

キーワード： 言語発達・言語発達障害・就学移行支援・
コミュニケーション評価と支援・子育て支援

● 主な取り組み・活動

発達障害児のコミュニケーションの特徴をふまえて、従来の検査では計れないコミュニケーション能力の評価方法および支援方法について検討しています。

（1）就学前の子どもの発達評価と支援に関する研究

就学前の発達や行動が気になる子どもの場合には、家庭と園での共通認識をもって、支援することが大切です。家庭と園双方での子どものとらえ方を明らかにし、家庭と園で共有できる発達・行動の指標作りを検討しました。これは5歳児健診や5歳児相談に役立つ指標になると考えます。また、気になる子の園内でできる支援をマニュアルとしてまとめました。

（2）文字を読み始めた時期の読解力の研究

○読解力とそれに関係する要因について調査・研究を行っております。

○発達障害児の読解力に関するつまづきを調査し、促進できる学習プログラムを検討しております。

● 今後の目標・抱負

パラ言語であるイントネーションのちがいによる、発話の意図の理解について、年齢や障害特徴の違いによる差を検討していきたいと思えます。他者の意図を理解しにくい発達障害の子ども達にとって、日々の日常会話の中で他者の意図理解を促進させていくことは難しいと思えます。そこで、他者の意図を理解する手がかりとして、パラ言語であるイントネーションの可能性を考えています。これは日常会話の中で子ども達の他者の意図理解を促進する支援方法を見出す一助になると考えます。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

子どもの就学移行支援に繋がる評価及び支援として

- ・パラ言語であるイントネーションやアクセントによって異なる、子どもの言語理解や他者の意図理解を評価する指標作りを行っていききたいと思えます。

- ・就学前に子どもが期待されている事と就学後子どもに期待されている事の違いを明らかにするため調査を実施し、就学移行の際の支援を実施したいと思えます。

● これまでの連携事例・実績

県立広島大学研究開発助成事業（広島県三原市）を受け、H22年～H24年度にかけて各年度テーマは異なるが、就学移行支援に繋がるための独自の5歳児発達スクリーニングの作成と支援マニュアル作成を実施してきました。